

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。新しい武雄市になって初めての一般質問ですので、もう今、ここに壇上に立ちまして、議員の皆さん方の顔を見ておるんですけども、顔がぼうっと見えて、もうそれくらいに緊張しております。（発言する者あり）それでは皆さん方、静かに。

○議長（杉原豊喜君）

私語を慎んでください。

○19番（山口昌宏君）（続）

通告に従いまして、今から私の一般質問をさせていただきます。

まず一番初めに、市長は保養村の位置づけをどのように考えておられるのか。それともう一つ、教育長は保養村に関してどのように位置づけておられるのか、まずこの2点をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おはようございます。答弁を開始させていただきます。

保養村の位置づけにつきましては、私は武雄の観光、あるいは市民住民の生活にとって、核の一つだというふうに考えております。その上で、従前の保養村の計画が核になり得るかどうか、これについては私もしっかり議論に入らなければいけないというふうに考えております。そして、先般の議会でも申し述べたとおり、果たして保養村という名前が市民、あるいは県民の皆さんの気持ちをとらえるかどうか、それも含めて、私は検討をすべき時期に来ているのではないかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

青少年育成の活動の場として、現在、保養村の一角を使用させてもらっておりますが、わんぱくスクール、あるいはジュニアリーダーの養成ということで活用させてもらっております。宇宙科学館も含めまして、青少年の健全な活動場所として大変有意義であると思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

それでは、今、温泉ハイツ周辺、要するに保養村周辺のすべての公共の施設が民間に移行するといいますか、そういうふうな状況になっておりますけれども、その中で、例えば、かんぽ、これは19年の3月ですね。そして、下のあれは何ですかね。（「ハートピア」と呼ぶ

者あり）ハートピアが21年ですかね、そういうことで民間に移行をされるような状況になっております。保養村をつくった当初は、武雄市としては、まず公共的な建物を基準に考えておりますということで保養村をつくられておりますけれども、保養村をつくるに当たっては38億円ぐらい、今現在でも投資をなされております。しかし、38億円のその投資の中で、果たして38億円分の内容であるのか、至って疑問だと思っております。それはなぜかといいますと、保養村の第3次整備計画が策定をされておりますけれども、この策定の中身を見ただけで、市長はどのようにこれを見て考えられたのか、まずその辺のところについて御答弁をお願いしたい。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、この武雄温泉の保養村第3次整備計画、これについては、私は4月に市長になりましたので、この策定作業には一切かかわっておりません。その上で、政治家として申し上げるとするならば、これ、ちょっとてんこ盛り過ぎて、ほんなごてこれが現実的にできるかどうか、予算の兼ね合い、それとこれは全面展開ですもんね。だから、そういう意味では、これは機関の長としてではなくて、今、私は一政治家として答弁を申し上げますけれども、ちょっとこれを全面展開するよりは、むしろこの中にあるものを段階的に分けて整備をするべきではないかというふうに考えております。もとより、もう少し私もこれはちょっと勉強する必要があるなというふうにも考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、市長答弁の中にありましたけれども、見はしたけれども、これは私はかかわっていない。もちろん4月の就任ですから、これについてのかかわりは恐らくないと。しかし、この第3次の保養村整備計画、これは議員の皆さん方が全部もらわれた分ですね。しかし、企画の方で借りてきました。これが第3次整備計画基本設計業務委託と書いてあります。これを借りてきたんですけれども、これをつくるのに幾らかかったか。約3,000千円。正式に言えば280何万円だそうです、約3,000千円ですね。280何万円と3,000千円といたら、物すごい違うけんが、それはやめてくださいと言われましたけれども、約3,000千円。きのうの競輪事業課の方での答弁の中でもあってありましたけれども、健全化計画も3,000千円かかりました。しかし、ここで問題に、皆さん方に考えていただかねばならないのは、両方で6,000千円使います。6,000千円使った割には、きのうの答弁では、もう3年前んとやけん、あんまり参考にならんですね、いろいろ情勢は変わっていきますからと。情勢が変わっていくのはわかった話なんです、もともとが。それで、両方で6,000千円。果たして、これを6,000

千円使った意義があったのか、いささか疑問に思うわけです。

保養村のこれを見たときに私が感じたのは、二、三点、ちょっとこれを見ながら申しますけれども、1点目は、この中で池ノ内のため池の周辺の整備をしますと書いてあります。これは莫大な金がかかるわけですよ。この周辺整備というのは、私は15年前にこの議会で言ったことがあります。それは何かというと、北方ではされておりますけれども、北方の焼米堤ですか、あそこは水辺環境整備事業でされましたよね。私は15年前に、あの池ノ内の堤を水辺環境整備事業でしなさいと、してくださいとお願いをしたわけです。県にも私は行きました。そのとき、県の本課の職員さんは、うん、これはおもしろかのうと。池ノ内の堤の真ん中に橋をかけて、あそこを行ったり来たりしたら、子供たちも、あるいは一日じゅう遊べるかもわからんものうと。そして、その整備をしようと。県は乗りますよという話だったんです。しかし、武雄市は何と言ったかと。いんにゃ、そいばすぎですねと。もうその職員さんはやめておられますので、もちろん名前も何も言いませんけれども、私たちの仕事のふゆっですもんねと。その一言で終わりやったわけです。

もう一つは、この中で見よったら、例えば、山に紅葉を見るとかなんとか書いてあります。これを、紅葉を見ると書くようであれば、27番議員の散歩コースであります柏岳、あの柏岳に生活保全林事業で整備をしましたね。トイレもないような整備なんですよ。私は15年前に、それを保養村の周辺をしたらどうですかと提案しました。しかし、それもなされていない。

そして、もう一つ疑問に感じるのは、せせらぎプロムナードという、あれは川ですか、水路ですか、何ですか、ありますよね。今現在、あそこを見に行ったらどうなっているか。草が生えて、そして唯一グリーンに、おっ、これはきれいかのというように思うのは何か。クレソン。水ないとんきれいかぎですよ、クレソンなら取って帰って、我がうちでおよごしないとんして食わるっ。しかし、書いてあるその中で、そしたら、きれいな水が流れる対応は、水はどこから持ってくっとか。そういうふうなことは何も書いてなかわけです。そして3,000千円、この点についてどう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

おはようございます。お尋ねの基本設計の業務委託ですが、これについては発注額が2,835千円になっております。これにつきましては、昨年の7月に質問がありましたように、第3次の整備計画をつくりまして、それを受けまして基本設計の業務を行ったということですが、今議会にもありますように、武雄市の財政は非常に逼迫をしているということで、今後につきましては慎重に対応していきたいということで考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私が言いたいのは、慎重に、それはもちろんやらなければいけないと思います。私が言いたいのは2,835千円、むだ金やなかったとかいて言いたかです。そいだけかけてする値打ちのあったとですかて言いたか。きのうの競輪事業の健全化計画もしかり。

それで、けさ、ああそうか、市民病院も健全化計画で委託に出しとったにゃと思って、市民病院の事務長にお尋ねをしましたところ、いや、それは十分に元は取ったばんたて。十分に元を取れるような健全化計画であれば、何も言わんわけです。きのうの答弁では、もう3年前んとやけん、もう世の中変わっとるですもんねと。世の中の変わっていくのは当たり前です。それだけで3,000千円使うてもろうたら、税金ば納めよる市民はどがん思うですか。余りにもお役所仕事のやり方のような気がするわけです。その点について、市長、どのように思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

市民病院のコンサルに出した、コンサルからの報告書は私もつぶさに読んで、これはようできとるというふうに思いました。これをもとにして、委託費を減らしたりとか、あるいは業務の提携の見直しをした。したがって、これは十分に元を取っている。

今後、先ほど名前が出ました競輪であったり、あるいは保養村の整備計画は、今後これをどう生かすかによって、元が取れたか、取れんかというとは判断をすべきだというふうに思っておりますので、現段階でこれが失敗だったか、成功だったかというのは答える段階には私はないというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

さすが市長です。前の市長に、ちゃんと思いやりを持って答弁をされて、やっぱり東大卒業、同じ学校の出身だなどと思っておりますけれども、いずれにしても、これを見たときに、余りにも漠然とし過ぎるわけですね。

そして、その中で、ずっと見よったら遊具なんかのこともあるわけですね。その遊具は見よるぎ、安くても1,000千円ぐらいするわけですよ。これからはちょっと教育委員会の方に入りますけれども、この遊具なんか見よったら、本当に安くて850千円。それとか3,580千円とか、いろいろ遊具を書いてあります。これは材木でつくった——材木というよりも、間伐材でつくったような遊具をいっぱい書いてありますけれども、教育委員会にお尋ねは、こういうふうなどを、親と子供で間伐材をもらってきて、できはせんかと。あるもので、そこ

にある遊具で遊べというのじゃなくて、親と子で、あるいは学校の先生も含めて、その学習の面でこれをつくれはせんかと思うわけですよ。例えば、学校の子供の親御さんの中には、職人さんも、大工さんもおんさっでしょう。あるいは土建業さんもおんさっかもわからん。その人たちと、今、仕事のなかとけん、あんまり忙しゅうなかです。そういうことで、子供と親と先生と地域と一体となってこれはできないか。その点について、教育長、どのように思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、全く私も同感でございます。実は、わんぱく広場というものを一部お借りして実施しておりますが、そこは農業体験ということで、子供たちと、それから大人の皆さん方とで開墾をいたしました。そして今、ようやく4年目で、タマネギとかジャガイモとかまでつくれるようになったところでございます。

また、地域の皆さん方の清掃作業がありますが、そのときにいろいろと木材等が出てまいります。そういうものも、実はあそこで野外活動をするときの木材に、たきものにするためにストックをさせてもらうとかということで、今、私どもが使わせてもらっておりますところは、全く野生的な広場ということで、なるべくそういう遊具というような発想はしておりません。しかし、今、議員御指摘のように、子供と大人との共同作業の場、これはこれから大いにしていかなきゃならないわけでございますから、金をかけての遊具というよりも、今、議員の御指摘のと通りの視点で、これからも進めていくつもりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

教育長の考えがそういうことであれば、去年の間伐材が東川登の内田地区というところに、山にどがしこでんあるですもんね。私に言ってもらえれば、生徒を連れて、いつでも来てください。

そしたら、次に移ります。

かんぼの宿武雄ですか、あの上のは。あれが来年度の3月で閉鎖して、9月議会で市長答弁の中にあっただかと思えますけれども、武雄市で買うばんたという答弁がなされましたね。その中で、武雄市が買う。買うのは結構かと思えますけれども、買った後、どういうふうなやり方をするのか。その辺についての答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

前回の議会で、かんぽの宿については、まず武雄市が一たん買い受けるという、取得の意思があるというふうな答弁をいたしたところであります。

まず、今後のスケジュールについては、12月末までに郵政公社と私との間で最終的合意に向けて、今、最終調整をしております。これは売却の値段、そしてこれに動産が加わるかどうか等々を含めて、今、最終調整をしております。実務は、古賀副市長と私とで今やっております。

その上で、行政と郵政公社の間で、もうこの値段で行こうということが決定をした場合に、直ちに議会に相談をして、臨時議会を開いていただきたいというふうに考えております。その時期については、もう年内は無理でありますので、早ければ1月に、このための臨時議会を開催して、そこで御議決を賜る、そういう手続を今考えております。

議会の議決を経た後に、正式に諸条件を含めた値段が確定いたしますので、前回の議会では、私は一たん取得をして、指定管理者から売却まで幅広い話をしておりました。今の私の考えは、市内の事業者を優先して、私はこの売却価格でお願いをしたいというふうに思っております。具体的な手続等については、これからちょっと詰めて、また議会に相談をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私の考えとしては、今、市長が答弁されたように、もし買うのであれば、買った後、すぐ売ってください。売るについては、やっぱり武雄市に会社がある、あるいは武雄市に本社機構がある、税金の取れるようなところに売っていただきたい、そのように思っております。

やっぱり公共的に、例えば、行政が持っておって、何というですか、どこかに貸すとか何とかいうのであれば、これはもう温泉ハイツでもしかりですけれども、温泉ハイツの場合は条件がついて、5年間はだめですよということで今の状態なんですけれども、やっぱりもう早く売の方があくがないのかなと私も考えております。

議長、ちょっと休憩してもらっていいですか。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩いたします。

休	憩	10時24分
再	開	10時32分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ただいま山口議員の申し出についてでございますけれども、質問者と執行部とのやりとりですので、執行部答弁への発言や私語は厳に慎むようお願いをいたします。

19番議員、質問を続けてください。19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そういうことで、かんぽの宿もスムーズに行くようにお願いをいたしまして、もうこの件についてはこの辺でとどめて、次の質問に入りたいと思います。

新しい武雄市の今後はどのように変わっていくのかということで出しておりますけれども、その中で、がばいばあちゃんのロケを今後どのように活用していくのか。一つの例として、がばいばあちゃんのロケが済んだ後、何といいますか、ロケがあった場所と、例えば、自分のところの会社の昼食場所とをセットで熊本に営業に行って、営業に行った結果が、約5,000人の方の予約がとれたという話なんですね。それで、そこで昼食を食べたときに、大体3千円ぐらいのめどで計算ができると。それは何かというと、食事代と、そこで買う土産代で大体1人頭3千円。それくらいぐらいは大体勘定できますよという話だったんですね。あるところはそういうふうにして、がばいばあちゃんの効果を有効に使われておる。しかし、中心市街地を見ているときに、果たしてその活用がどうだろうか。

1番議員の質問の中で――質問の中でというよりも、1番議員と、この一般質問に対しての勉強会を――勉強会じゃなかですね、2人やけん。その中で1番議員が、山口さん、あんたは、このがばいばあちゃんはバッター順でするぎ何番やと。それこそ私も1番と。市長と同じで、それは1番バッターくさいと言ったことがあるんですけども、1番バッターの役目は終わったと。そいぎ、それを市長の話をちょっとかりれば、やっぱりそればホームに帰さんばいかん。ホームに帰すということは、やっぱりこれを活用してもらおうと。そういう面で、市長として北部、要するに商店街の方たちに、どのようにしてこれを、その活用をしてくださいというよりも、その活用のあり方、仕方、そういうふうなものをアピールされていくのか、その辺について答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今回の答弁は、北部を中心に答弁をしたいというふうに思います。

まず、私がぜひ必要だと思っているのは、「佐賀のがばいばあちゃん」の、きのう資料館の答弁をいたしました。これのミニ版を、ぜひ北部の商店街の空き店舗。例えて言うと、本山酒造の跡であったりとか、あるいは今もうシャッターがどんどん閉まりよるですね。ああいったところに、一つ核になるようなところにまずそれがあって、そこに1回、観光客の皆さんとかが来ると。それで、ここの商店にはがばいばあちゃん草履があるとか、ここの商店にはがばいばあちゃんせんべいがあるとか、この旅館に行けばこういったあれがあるという、一つの核になるような拠点施設が私は必要だというふうに思っております。そこと、実際の旅館であったりとか、商店であったりとか、そういうきめ細やかな連携がある方が、北部の

商店街の皆さんにとってはいいのかなというふうに思っています。

今、何でそんなことを言うかという、観光客の皆さんが来たときに、どこがロケセットねとか、いろんなことを言われるわけですね。だから、一たんここに、北部のところに来ると、一番集客のあるけんですね。そこで、いろんなお土産であったりとか、ロケ地であったりとかという紹介ができて、そこでタクシー２社、あるいは旅館との連携が今後広がっていけばいいなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ちょっと一つの例ですけれども、今から言うのは、私の先輩である平野先輩が、山口、ちょっと来てみろと。それで、はいと言って行って、平野議員と話す機会がありましたので、その中で話をしておりましたときに、きょう朝さいて、きょうの話じゃなかですよ。その会った日の朝、テレビで日向市のことのありよった。宮崎県の日向市ですよ、がありよったと。それは何かと言うぎ、山田洋次監督の「男はつらいよ」、そのロケの誘致ば日向市がした。しかし、来てもらえんやったと。ところが、山田洋次監督が日向市を気に入るとんさっと。気に入って、10何年来、ずっといまだにつき合いがあつとるですね。それで、日向市が行政じゃなくて市民レベルで、山田洋次監督とつき合いながら、いろんなことを勉強しながら、要するに日向市の浮揚のために、市民レベルで今やっておられる。年に何回か山田洋次監督も、いまだに日向市においでになっているという話なんですね。これはまさに、今度は幸いにしてロケに来てもらった。ロケまでしてもろうたないば、結局、行政はきっかけをつくったわけですね。これを生かすも殺すもその後なんです。例えば、極端な言い方すれば、牛を水飲み場に連れていくことはできる。飲むか、飲まんかは牛次第です。行政がきっかけをつくった。そのきっかけをつくったならば、それを生かすも殺すも今度は市民だということなんですね。

そういうことで、市長も、あるいは教育委員会も、あるいは我々議員も、このきっかけをいかに生かすかということで、今後はやっぱり大いに考えていかんばいかんやろう。このがばいばあちゃんについても、多くの人たちが一般質問されました。これは、その後で一般質問する私はがばい難しかです、それこそ。そいけん、がばいばあちゃんについてはこの辺でやめたいと思いますけれども、次に、新しい武雄市の今後はどのように変わっていくのかという中で、財政負担をどのようにしていくのかという質問を出しておりますので、それに移りたいと思いますが、これは市長にお尋ねします。

合併をして、なぜ金のなかとか。合併して、首長は３人おんさった。ところが、その首長が１人になった。議長も３人おって、副議長も３人おんさった。これも１人になりました。助役、収入役は、今度は副市長制になって２人、６人おったとが２人になりました。議員だ

って、56人おったのが30人になります。それで、なぜ財政がこんなに厳しいのか、市長にお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

例えて言うならば、185億円のうち、先ほどの人件費の削減で、全体が10パイがあるとするならば、1削られたということです。それを上回って、今、補助金、あるいは地方交付税で段階補正って今まであったですね。これももう段階的に削られていく。今まで武雄みたいな小規模の自治体は、そういう地方交付税にさらに優遇で、しかも、特交といって特別交付税もかなり面倒は見てもらえた。しかし、その部分も、もう手をつけられよといったことからすると、1の行革努力に10の削減を迫られているというのが、今の武雄を含む小規模自治体の現状であります。したがって、例えて言うならば、これだけ身を削って、削ってするにもかかわらず、その補助金。我々はもうほとんど補助金、7割以上は交付税を含む補助金で成り立っておりますけれども、その削減のスピードが今早いということで、合併に向けて議会、あるいは前の執行部の皆さん、あるいは職員の皆さんたちの努力を上回るような削減のスピードが続いているのではないかというふうに分析をしております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

交付税を含む段階補正、合併をする前は段階補正は10年間は据え置きですよとかいう話があったですね。交付税だって、実際これを見れば、交付税は減っておらんわけですね。去年とことしというよりも、例えば、16年度と17年度、17年度と18年度を比べたときに、交付税そのものはあんまり変わっておらんでしょう。それで、なしがんきつかろうかになて、どうも腑に落ちんわけですね。

それで、合併ばするときに、負担は軽く、サービスは高くといって、合併協議会の中で当初は話がありよったですね。2回目ぐらいから、負担は軽く、サービスは高く一言も出てこんやった。それはなぜかというぎ、それは無理なことなんです。負担ば軽うして、サービスば高うしいきらないば、金のなかばんたとは今言わんです。例えば、固定資産税の税率とか、水道料金とか、下水道の問題とか、保育料の値下げとか、いろんな値を下げたり、負担を下げたり、あるいは窓口業務の金を下げたりしておりますけれども、そういうふうなことで果たしてできるのかなど。やっぱりある程度のことはやっておかんことには、皆さん方、均等にサービスはできんのじゃないかと思うんですけれども、内政担当の副市長、どんなですか、答弁いただけますか。内政担当として、上げたり下げたりの合併協議会の中であったですね。そういう中で、果たして、こいばこのまま続けていたて飯ば食わるっか、食わ

れんか、その辺のところを大まかでもよかですけれども、答弁できますか。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

○古賀副市長〔登壇〕

合併協議の中での話と現在の状況だと思います。合併協議の中では、いろんな項目について協議がなされております。例えば、地方税の取り扱いですね。それから、使用料、手数料等の取り扱い。これらにつきましては、合併協議会の協議事項につきましては大いに尊重しなければならないと思っております。ただ、その中でも特に使用料、手数料等につきましては、受益者負担の公平さ、そういうものが言われておりまして、原則に乗った料金設定、そしてまた定期的な見直しを行うというようなことも明記されております。そういう形で、現状に照らし合わせながら、適時的に見直しをしていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

私が今の市長と知り合ったのが3年ぐらい前だったと思うんですけども、私の議会報告のときにオブザーバーで来てもらって、そのときに合併は行くも地獄、引くも地獄ばい、私はその当事者ばいという話を市長がしたのを今覚えております。そして、その当時、まさか市長選に出てくるとは夢にも思うちゃおらんやったです、実際問題として。しかし、おれは市長選に出るけんということで来たときに、私は市長の公約といいますか、ビラを一生懸命配りました。矢筈も一軒一軒歩いて回るし、楠峰も一軒一軒歩いて回りました。それはなぜか。市長が書いているそのビラの中に、私は高槻市で病院を呼んできました。あるいは財政のがん厳しかところを、これだけに頑張ってきました。私の子供のような年齢のこの若さで、それだけのことをしてきたならば、これは武雄市も、ちょっと失礼な言い方かも知れませんが、そのときはまだ市長じゃありませんでしたので、この男に夢ば託して、おれも武雄市のために一生懸命頑張ってみようかなという気になって、私は市長選でそういうふうなことをやってきたつもりなんです。そいぎ、学校も誘致するばんた、あるいは企業も誘致するばんたという、そのパンフレットですか、それを見て頑張ってきたつもりなんです。そして、市長に当選して、今、半年。その半年の間、外政については、大田副市長を初め市長、もちろん市長は先頭でしょうけれども、大田副市長もそのための副市長ですから、どのようなやり方で、例えば企業誘致なり、あるいは学校誘致なり、今どのくらいぐらい前に進みよるといえるのか、努力をされているのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、企業誘致からお答えしたいと思います。

さきの答弁でお答えしたとおり、1社、9割5分ぐらいまでもう決まりかけております。年度内に公表ができるというふうに思っております。20人から30人規模の半導体の工場になるかどうか。進出の先は、若木の工業団地の2ヘクタールの一角だというふうに考えております。そういった意味で、私も1年以内には必ず1個だということを自分にも課して考えておりました。これについては、大田副市長に実務的には先陣を切って、今まとめてもらっているところであります。いい報告ができると思います。しかし、当該県と、まだバトルばしよるわけですね。やっぱり引き抜く方もエネルギーが要ります。引き抜かれる方もパワーが要ります。そのせめぎ合いを今しておりますけれども、大田副市長と企画部長で今一生懸命やっております。これが企業であります。

あと数社、問い合わせが私のところには来ております。しかし、やっぱりしんどかとは知名度のなさなんですね。高槻で、私も自分の力を過信していました。高槻でぽんぽこぽんぽこ呼んでこれたとは、もちろん行政当局が、市長がもう私に企業誘致の担当部長をしてくれと。ほとんど机におらんやったわけですね。関西大学に行ったり、鳥栖に進出したり、プロポリスのところに行ったり、ほとんどおらんやった。私がもうずっとそこの企業に張りついておったわけですね、学校とか。そのときは、やっぱり高槻といったら説明せんでよかったわけです。どういったところかというのは、もうみんな知っとっけんですね。しかし、武雄は一からそれば説明せんばいかんわけですね。説明しよるうちに、ほかのところにとられるというのが実際のあり方なんです。同じ条件であった場合に、この知名度のなさ、ブランド力のなさというのがちょっとやっぱりしんどかけんが、それば今、他方で上げている。それが実情であります。

次、学校です。学校は小中一貫の進学校、これは女子になろうかと思っておりますけれども、今、交渉をしております。これについては、先方から1点、条件が出されております。新幹線です。新幹線が通らんごたところに行きません。そういったところで、どうやって今後の西九州の発展があるんでしょうかというのを私に切々とされるわけですね。そういう意味で、学校の進出をするかどうか、もうかなり前向きになってもらっています。1,200人規模です。新幹線次第だというふうに私に突きつけられておりますので、それもあって、私はトップセールスをこれから先もしていかなければいけないというふうに考えております。企業でも同じです。新幹線が来もえんごたところに、だれが進出ばすっかと。だんだん私も熱くなってきましたけれども、そういうふうに言われる昨今であります。企業、学校、今そういう状況にあります。

それと、もう一つですね。できれば今、足りない、足りないと言われる看護師さんですね。

看護師さんの正看のあれが足りんわけですね。あるいは今どんどん需要が膨らんでいる、マッサージをされる、その学校が一つ来てほしいなというのは思っておりますし、今幾つか話が来ておりますので、これはどういう状況になるかまだわかりませんが、今後需要がふえていくのは、むしろさっき言ったような、学校よりも、むしろそっちの方がまた需要がふえていくのかなということで、私もまた外政担当の副市長とともに誘致に頑張っていきたいというふうに思っております。今がその現状と今後でございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

実は、今、状況はどがんたつとるですかと聞いた後、ひょっとするぎにゃ新幹線が条件で、新幹線の来んぎにゃて、来るとが条件と。それがネックになつとりゃせんかい、実は聞こうと思うとったわけです。そいぎにゃ、さっき答えられましたので、もうそれで、今後も頑張っていたきたいと思います。

それと次は、きょうの新聞に、2007年度予算案の中で交付税の増減を焦点と書いて、30兆円の、あんまり数の太かけんが言葉も出んごたあばってんが、前年度が30兆円の国債発行ばすると言いよったとが、25兆円に減らしておる。その5兆円はどこに響くか。交付税に響く。これについて、市長はどのような感想を持っておられるのか。あるいは交付税で言うぎ、どれくらいぐらい、ひょっとするぎ減らさるっとやなかろうかにゃという頭がおありなのか、その辺について答弁できますか。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もけさの新聞を読んで、ちょっとショックを受けました。今、交付税が全国で19年度で16兆5,400億円です。19年度、16兆5,400億円になって、18年度が15兆9,000億円と、大体16兆円前後で動きよるわけですね。その中で、まともに5兆円、例えば交付税に振りかぶってくるですね。そいぎんた、11兆円しかのうなるわけですね。しかも御案内のとおり、交付税というのは、我々みたいな小規模団体に厚く配分ばされよるわけですね。だから、これがまともに来た場合は、もう財政運営できません、無理です。だから、我々としては、それが交付税にかぶらないようにしていかなければいけないと思っていますし、それは総務省と財務省の狭い意味での話ではなくて、これはほんなごて地方行政が成り立っていくかどうかと、そういった岐路に立つのが、けさの新聞報道だったというふうに思っています。

ともすれば、夕張市だったり、きょうも朝のテレビで熱海市ですか、熱海市が財政危機宣言ばしたですね。それで、あたかも地方はむだ遣いの多かというふうに今どうもなつとるですね。みのもんたさんなんか、もう何かつぶれてしまえというような言い方ばしよんさあで

すね。みのもんたさんは何かそういう感じなんですね、悪かところは。1回ああいうふうにマスコミ報道されれば、十把一からげのようにそういうふうに思われるわけです。そういう風潮が非常に私は怖く思っています。

その上で、最後にしますけれども、じゃ、どのくらい減らされるやろうかと。日本の場合は、大体足して2で割った数字が最終的な落としどころとなると思っています、大体今まで私の経験則上。議員も多分同じことをお考えだと思います。そういう意味で、やっぱり1兆円から2兆円程度は多分交付税に響いてくると。そうなってくると、2006の骨太の方針とやっぱりずれるわけですね。総額は堅持しますと。しかし、もう竹中さんもおんされんわけですね、閣外に去ってしまっ。だから、そういう意味での、何というんですかね、今回の安倍総理が打ち出されたのが、私はちょっと優先されるとじゃなかかなという非常な危機感を持っております。これについて、できることは私も一生懸命やっていこうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということは、いずれにしても、我が武雄市としても、最終的には税収の確保を何とかしなければいけない。とどのつまり、そこなんですね。

そこで、先日、牟田議員の質問の中で、伊万里へ水ば売ると、どがんじゃい努力ばしようやという話やったですね。その中で、ふだんの市長の答弁の歯切れのよさというのは影を潜めて、うにゅうにゅうにゅうというような言い方で答弁がなされましたけれども、それこそ水は死活問題、武雄市も死活問題なんです。その点で直談判、要するにトップセールスの直談判をしてでも、今からでも遅うなかと思う。県にでもトップセールスをかけるという気持ちがおありなのかどうか、答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先般の牟田議員の私に対する質問で、また私のプライベートの時間がなくなりました。マスコミの皆さんとか、関係者の皆さんから、山のごと電話のかかってきました。そういう意味で、この市議会というパワーが、そのやりとりですね。これがどれだけの人を引きつけて、どれだけの問題提起をしたかということで、改めて議会、このやりとりの重要性を痛感しました。

その上で、やっぱり私も考えたです、議会からも言われましたし。県当局にはもう伝えました、こういう話が出ていますと。知事にはやっぱり伝え切らんですね。もう物事決まりよるところで、ここで投げかけるということにすると、私の心情とはやっぱりちょっとずれる

わけです。だから、そういう意味で、私は県よりも、むしろ当事者たる伊万里市さんが、やっぱりこれは助けを求めてくるといったときに、我々は直ちに対応ができると、対応したいというのが私の精いっぱいのお答えであります。これ、だいでん見よんさあけんですね。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

しかし、いずれにしても、水の問題ばかりじゃない。背に腹はかえられん。武雄市民も、5万3,000の武雄市民が食うて飲んでいかんばならんわけです。そのときには、やっぱりトップは腹をくくって頑張ってもらわんばいかんと思うわけですね。

前議員の質問の中でも、財政の厳しかけんがて暗い話ばかりごっとい、やっぱりもうこのごろの一般質問の中身を見よっても全部そうなんですね。何じゃいろ明るか話はなかとですかねと言いたいような気がするわけです。

例えば、昔、竹下内閣のときやったですか。ふるさと創生資金といって、各自治体に1億円ずつくんされたですね。そういうふうで、武雄市も何じゃいろ出すような基金は、各町に幾らずつないとん、どうしてもこれは緊急を要するばいというごたっとの仕のあるはずやけん、そういうふうな面で、何か明るかニュースか何かなかですかね。その辺、財政を預かる人としてどがんですか。お答えできますか。市長ですか、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も暗い話は嫌いですので、明るい話をしたいと思います。

今、行革担当部長、企画部長の方で、いろんな基金の見直しをしております。あるいは、いろいろ財源の重複の部分とか、これを一たんかき集めようというふうに思っています。その上で私は、これは議会にもきちんとお諮りをしなきゃいけないことですが、これをできれば周辺部対策として各町に5,000千円から10,000千円、今ないところもありますけれども、各町のまちづくり協議会に交付をしたいというふうに思っております。そのお金で全部できればそれはいいですが、あと足りない部分は、地区の住民の方からプラスアルファして、そういうまちづくりの交付金、基金をつくりたいというふうに考えております。

これについては、もうあれですもんね。実際まちづくりをするといったとき、やっぱりお金が要するというのは私も重々思っております。それと、やっぱりそこに住民の皆さんたちに私は参加してほしいと思っています、こういったところに使うべきだとか。だから、私は、さっきいみじくも出ましたけれども、竹下内閣のふるさと創生基金でしたっけ、1億円の。あれは物すごくよいか話で、今あれは悪かった、ばらまきと言われようでしょう。あれは使われる、交付された方がろくなのばつくとらんわけですね、オールジャパンで見た場合に。

あれを例えば、1億円で、ある町なんかは、それを次代の子供たちにとって奨学金に使ったりとか、あるいはまちづくりというふうにするために、その後押しに使ったりとか、そういうふうに使っておくところもあるわけですね。そこでうまく使ったところは、あの交付金はほんなごてありがたかったというふうにありますので、一たん我々がそうやって腹をくくって交付する以上は、各町がそれを真にどういうふうに使っていただけるかといったところが私は問われていくというふうに思っています。そういう意味で、私はまちづくりの整備交付金について検討をこれから開始して、早ければ来年の3月に議会に御説明、お諮りをしたいというふうに考えております。ちょっと6月になるかもしれませんが、十分、もう少し中で詰めさせていただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、市長が選挙をする中で、あるいは選挙後も含めてですけれども、合併をしてよかったか、悪かったかは、周辺部の人たちが合併をしてよかったのと言うて、初めて合併は成功なんだと市長は申されましたね。これはもう何十遍となく私は聞いたわけですね。そういうことを考えたときに、今の話を含めて、せめて明るい話の一つもあった方が、人間だれしも一緒だと思いますけれども、生きる上では希望もあるんじゃないかと思っておりますので、その辺を考慮しながら、無理のないよう、しかし、どこまでが無理かと言われたときに、やるのも無理かもわからん、使わんで置いておっても無理かもわかりませんので、その辺のところは熟慮に熟慮を重ねた上でしてもらいたいと思っております。

では、次に行きます。

教育行政のあり方についての質問を出しておりますので、これは多くの皆様方が今までに取り上げられました。例えば、いじめの問題であり、教育の今後はどがんすつかいというような問題で、やっぱり3日目ともなると、教育問題で質問ばするとのなかごとなりましたので、1点だけ。

今の武雄市内に、例えば、私は東川登ですので、東川登の出身の学校の先生が、例えば、東川登の小学校なり、川登の中学校なりに何人ぐらいおんさるですかということで調べてもらいました。その結果が、だれもおんされん、一人もおらんところが若木小学校、武内小学校、西川登小学校、東川登小学校、橘小学校、川登中学校、北方中学校なんです。一人もおらんところが、地元の出身の先生がおらんところが。確かに、広域の異動かもわかりません。しかし、私に言わせれば、これの方が、だれもおんされんところ、こういうふうなのがいじめの原因になるんじゃないかと思うわけですね。

それはなぜかというぎ、例えば、校長先生なり教頭先生なりがその、例えば、私は東川登です。東川登の出身の教頭先生であり、校長先生であつたら、あっ、この子はあその息

子やものの、あそこの孫じゃもの。大体家庭環境がんじゃない。大体わかりますね、子供も少なかとやけん。そいぎ、何かあったら、ああ、あそこはこういうふうやけん、こういうふうな対処ばするぎよかの。これは地元の者じゃなからんばわからんわけですね。例えば、同じ東川登でも永野と宇土手は風土が違います。気候は余り変わらんですね。風土は本当に違うわけですよ、考え方も。そいばわかるとは、地元の先生やなからんばわからんわけです。それをこれだけ、7校、一人もおんされんわけですよ。そして片一方では、いじめのありよるけんが、どがんじゃないせんばいかん。それはなかりうもんと私は言いたかわけですね。ほんなごて年配の先生やったら、ああ、あそこの孫はがん遊びよったもんになて。もう極端な言い方をすれば、おしめつけているときから知っておるぐらいの話、そんなものでしょうが、小さな学校やけん。こういうふうなことを教育委員会としてもっと考えられんものか、その点についてお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、現在、町出身の教職員で全くいない校区もございます。これは今御指摘のとおりでございます。この教職員の人事につきましては、皆様方御承知のとおり、全県的な視野で行われているわけでございますが、実際、学校経営をする校長にとりましては、今御指摘のとおり、地域に根差した職員がいるか、いないかで大きく変わってまいります。私もそういう経験をした一人でございます。

これまで地元の先生を一人でも多くということで、広域人事の中でも教育長会や、あるいは教育委員長会等でも、県の方では再三話題になっております。しかし、これが十分でないということは、もう認めざるを得ないわけでございますが、この議員の御指摘のことは、全県的な県民の皆様の御意見でもあらうと思っております。私ども人事を直接任命する立場ではございませんが、服務監督権者としての気持ちは今後も伝えていく努力をしていかなければならないし、またそのことで頑張っていかなければならないと、こういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、教育長が全県的な異動ですのど。教育長会なんかでもその話をしておりますよと。全県的なそういうふうな要望であれば、例えば、出身の先生をそこに置くのは簡単じゃないんですか。だれでも希望、佐賀県民の総意ですよ。それこそ、どこかの首長さんが、これは市民の総意やけんが新幹線反対ばんたと言いよんさると一緒でしょうもん。県民の総意ならば、できて当たり前じゃなかとですか。

例えば、東川登小学校の校長先生はどこからですか。波多津んにきからですよ。川登中学校の校長先生はどこからというぎ、佐賀からです。佐賀の先生が川登中学校に来て、あるいは波多津の先生が東川登小学校に来て、気候風土もわからん、親の面も知らん、子の面も知らんというごた、そういうふうな先生が来て、いじめのありよるばんた。対処のでくっですか。こういうふうなどを見たときに、地元の先生がおって、生活環境、家庭環境がわかった上で対処のでくっじゃなかですか。県民の総意であれば、教育長としてももっと強く働きかけていただきたい。要望します。

それでは、次に行きます。出しておる分は質問をせんばいかんと思いますので、早足で行きたいと思いますが、農道、市道の整備及び管理についてということで出しております。

まず、農道の方から行きますけれども、今、農道整備に各区に20立米ずつもらっております。年間20立米ということは、どういうふうなことかというぎ……（「15」と呼ぶ者あり）15ですか。そいぎにゃあんまりひどか、まだ悪か。15立米ならば、例えば、10メートルの延長で3メートルの幅で、やっぱり車の通らんばいかんけんが7センチぐらい打ったとする。それでも10メートルで2.1立米要るわけですよ。そいぎにゃ、15立米で70メートルぐらいしかなかですね。

東川登の袴野の例を挙げます。袴野の農道で今、生コンが打ってないところが1,829メートル、区長さんからこれはいただきました。1,829メートル割る70メートルでするぎ、20年ぐらいかかるですね。そのぐらいかかるでしょう。20年、仮にかかったら、手前は壊れとるですよ、生コンの打ったとは。そして、15立米もろうて、地元の区長さんはありがとうございましたと言ひよんさる、市に。そして、ちょっと言うていいか悪いかわかりませんが、何と担当課に行って、いや、袴野の区長さんからもろうたとはこがんばいて言うたぎ、何と言わしたか。東川登は、特に農道の整備のおくれとるもんの。南永野なんかこの倍ある、舗装ばしとらんと。そいぎにゃ、仮に倍するなら、20年なら40年かかるですね。そういうふうな対応ば、例えば、9月の議会やったですか。15番議員の石橋議員の質問の中でもありましたけれども、農道の生コン支給、単独土地改良事業で何じゃいできんじやろうかと。これは15立米の生コンの支給を続けても、永遠に続けても間に合わんです。どこかで対応はせんばいかんと思うですけれども、その辺についての答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員御指摘のように、現在、集落内の農道舗装につきましては、地域の協力を得まして、1地区15立米、これを限度に生コン支給をいたしまして、農道の舗装を進めているところで

ございます。

それで、現在の15立米につきましては、地区で一律に15立米という形でしておりますけれども、大きな地区、小さな地区ございますので、新年度からは、この生コンの支給につきましては効率的に支給をするということから、支給量の見直しにつきまして、現在、検討をいたしております。

それから、舗装の期間が長くかかるんじゃないかということでございますが、これにつきましては現実そうでございます。ただ、農林課といたしましては、予算の要求をいたして、なるべく早く舗装ができるようにということでやっておりますが、財政状況もございまして、なかなか進んでいないということでございます。それで、今回、12月の補正におきましては、4,000千円の追加をお願いいたしております。

それと、もう一つでございますが、平成19年度から国の事業として実施をされます農地・水・環境保全向上対策事業が開始されますが、これを活用して農道舗装のスピードアップを幾らかでも図っていききたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

来年度から新規事業の予定がありますので、それに乗かって頑張っていきたいということでございますけれども、言うばかりじゃなし、実際頑張ってくださいよ。昔、モデル事業というてあったですね。そのモデル事業が一番初めて出たときから10年後に武雄市がモデル事業ばしたです。あれはモデル事業じゃなかです。出たないば、すぐ行くとがモデル事業でしょうが。そいけん、昔、企画課じゃなくて、何と言いよったですかね、一番初めのときは。あのときに私が言うたとは、企画して立案すつとがここの仕事やろうもんで。10年もたってからあんたたち、がんとぼすとやて。そして、2年か3年で終わったですね、モデルは。そういうふうなことのなかように、出たないば、さっとやるというようなことをやってください。

次、市道の維持管理についてお尋ねをします。

市道の路線が合併をして979路線になったそうです。総延長609キロ。そして、武雄市の1キロメートル当たりの維持管理費は幾らか。1キロ150千円なんです。あら、1キロ150千円なら大概あるたい。これは錯覚です。1メートル当たりに換算したら15円やった。県を見ればどうなっているか。県道183キロ。維持管理費は幾らか、289,000千円。そいぎ、キロメートル当たりの維持管理費、約1,600千円。1,600千円と150千円、県と市の違いやけんが、がしこ安かとかにゃと思う。ただ、財政の厳しかということは十二分にわかっております。しかし、もうある程度の市道は整備をされております。今後、この市道整備の後、何が残るか。維持管理しかないわけです。

たびたび東川登の例を出して済みませんけれども、東川登には立派な高速道路の側道があります。この側道の維持管理はだれがしているか。今までは一銭ももらわじ、地元の住民が区役で草を刈っておりました。この一般質問を出して建設課に行ったときに、たまたま、また袴野の区長さんの名前の出るですけれども、袴野の区長さんの来ておんさったです。それこそ、何しやあ来たのまいて。いんにゃ、実は側道の草刈りばした。そいぎにゃ、側道の草刈りばしたけん、油代ばくるって言いんされたたいのと。去年は、その油代さえなかったわけです。たびたび私は言いよったですけれども、一歩前進なんですよ。油代は知れたもんです。しかし、なかとよりかはましです。

今から先の維持管理は絶対必要で。意外と1年に一遍か二遍、必ず専決処分といって、あそこで事故の起きたもんのまい、保険でしました。1年に一遍か二遍、必ずありよるですね。それは保険ですっけんが、市の財政から出しよらんもんのまいて。これは当たり前じゃないわけです。道は、舗装が当たり前にして、草を刈っておって、それで当たり前なんです。そいばしゅうでちゃ、維持管理しかなかわけでしょうが。

それで、県に問い合わせ、草刈りの金の幾らかんたて聞いたですね。そいぎ、何て言いんされたか。これはマル秘と。大体平米当たり90円近うあるですもんね。草刈りだけでも何千万円となからんばできん。しかし、やっぱりその辺で今後の道路情勢を考えたときに、もう補修、維持管理しか今後はなかと思うわけですね。区画整理事業なんかをしたときの道路は別ですよ。しかし、もう今現在の新しい道路、それなりに舗装ができておりますので、維持管理のその辺のところについて、トップとして、この状況を踏まえてどうお考えなのかを質問します。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

道路の整備には二つあります。一つは、新道を要望に沿ってまたつくっていくこと、それと現道の維持補修、大きく分けてこの二つがあります。

私といたしましては、これも議論を呼ぶと思いますが、現道の整備の方に重点的に予算を張りつけたいというふうに考えております。今あるものをきちんとメンテをして、それを有効に使っていただく、これが一つの、私は武雄の道路行政のあり方ではないかというふうに考えております。その上で、私も地区の皆さんの御協力に深く感謝をしたいというふうに思っております。

そういう意味で、道路の整備補修について、私は先ほど予算の重点配分と言いましたけれども、その中で一定の人件費はきちんと配慮、ケアすべきだというふうに私自身は考えております。そういう意味で、ありていに言えば、新道整備に係る予算を一部削ってでも現道整備に充てる。そこで、穴ばこの修復に、まずハードに充てる。それで、先ほどお話がありま

したような草刈りのソフトの補修というのも私はあると思います。その部分に私は予算を振り向けたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、武雄市の財政は厳しいということには変わりはないわけですね。しかし、厳しい、厳しいと言いながら、何もせんぎにやまだ厳しくなる。厳しい中にも、ゆとりのある市政へ向けて、今後、執行部と議会が一体になって頑張っていかなければいけないかと思っていますので、その点は我々も執行部も心して今後やっていきたいと思っています。

どうも、これで終わります。